

わたしのしょうらいのゆめ

中部小・2・大塚 えな

わたしのしょうらいのゆめは「作家」です。わたしとふたごのさやは、ものごたりに考えるのがとくいで、よくそれぞれ絵本を作っていました。

この前、じどうクラブで、

「ねえ、お話を書こうよ。二人で書いたらいいな本ができそうじゃない。」とふたごのさやに言ってみました。そこから二人でお話を書きはじめて、はじめて出来上がった本が、『ななことモグッチのまい日』でした。このお話は、中学三年の女の子「ななこと」と、もぐらの「モグッチ」が楽しいまい日を過ごすお話です。ななごがたんにいになったり、モグッチとななごが分かれてしまったり、と色々なことがおこるので、ものごたりはあつという間に二十五かんまでできました。一かんごとになかまをふやして、もつともつとハッピーにしていきたいなとわくわくしながら書きました。

できた本を、三つ上のお姉ちゃんやじどうクラブの先生や友だちに見せると、

「おもしろかったよ、ありがとう！」

「すごいね！二十五かんもあるの？」

とほめてくれて、うれしくなりました。

かんせいのした『ななことモグッチのまい日』が十かん、二十かんとふえてきた時、じどうクラブの先生がおかしのはこで本を入れるケースを作ってくれました。本を入れてみると、作家になるゆめがかなったよう

な気がしてとてもうれしくなりました。

じどうクラブで本を見てくれる人が多くなったので、かみでひよこの絵の「手作り図書カード」を作りました。図書カードをもらってくれる人がふえて、作るのが大変になってしまった時もあったけど、本を読んでもくれる人がふえるのはうれしかったです。

わたしは、じどうクラブで読書をしたり、しゆくだいをしたり、がんばっています。でも、『ななことモグッチのまい日』を作っている時は、大すきなさやといっしょにできて、とても楽しい気持ちになります。

一冊は十四ページしかないけど、二十五かん合わせたらとてもぶあついです。いつか、『ななことモグッチのまい日』を、本やさんにあるようなきれいな本にしたいです。ゆめがかなったら、ちがう本もたくさんつくってみたいです。ふたごのさやといっしょに本を作る時間はとってもとくべつで、しあわせな時間です。さやは、

「わたし、『ななことモグッチのまい日』が二十五かんまでつくりおわったら、マンガを書きたいな。」

と言っています。わたしは、小さい子がよろこびそうな本やかみしばいにもちようせんしてみたいと思っています。しょうせつも書いてみたいんです。これからふたごのさやといっしょに、「ふたごの作家」としてたくさんの本を作っていきたいと思います。